

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26211] IgGサブクラス分画

受託開始日

- 平成27年2月2日(月)



IgGサブクラス分画

免疫グロブリンIgGは5種類の免疫グロブリンのうち最も多量に存在し、全免疫グロブリンの2/3以上を占めます。さらにIgGはH鎖定常領域遺伝子群（ $\gamma 1\sim 4$ ）の違いによりIgG1～4の4種類のサブクラスに分類されます。IgGは胎盤透過性をもつため母から児に移行し、出生直後はほぼ成人に近い値を示します。その後濃度が低下し、生後3～4ヶ月で最も低くなりますが、5～6歳でまたほぼ成人値になります。IgGはB細胞から産生され、体液性免疫によりウイルスや細菌の排除などを行う生体防御を担う主要な免疫グロブリンとして重要であり、IgG濃度が低い場合は「原発性（先天性）免疫不全症」の1病型として、感染症を繰り返す易感染性の原因となります。

「IgGサブクラス欠損症」はこの原発性免疫不全症の中で「抗体産生不全を主とする免疫不全症」に分類される疾患で、サブクラスの1つ又は複数の成分の欠損または低下が認められるものをいいます。易感染性の症状としては、X連鎖無ガンマグロブリン血症と比較し、軽度であり、中には無症状の場合もあります。

IgGサブクラスの濃度はほぼIgG1>IgG2>IgG4>IgG3の順であり、IgG1およびIgG2のみが特異抗体活性を有し、ウイルスや細胞外毒素などの蛋白に対する抗体は主にIgG1に、細菌表面の多糖類に対する抗体は主にIgG2に属しています。

サブクラス欠損症はIgG1～4のすべてに報告されており、IgG2欠損症は小児に多く、成人ではIgG3欠損症が多いとされ、IgG2欠損症はIgG4欠損症を伴うことがあるとされています。なかでもIgG2欠損症では肺炎球菌やインフルエンザ桿菌の多糖体抗原に対し免疫反応の不全を示すため、反復して中耳炎や下気道感染、肺炎などを起こしますが、原因不明のまま抗生物質投与などが行われることも多いと考えられます。

「IgGサブクラス分画」はIgGサブクラス1～4を定量測定するもので、特に易感染性や反復感染を示す患者の病態解析や免疫グロブリン補充療法などの治療法の選択に重要です。

また、近年注目されているIgG4関連疾患の診断補助にも有用と考えられます。

検査要項

項目コード	26211
検査項目名	IgGサブクラス分画
検体量／保存方法	血清 0.4mL / 冷蔵
検査方法	ネフェロメトリー法
基準値	IgG1： 320～748 mg/dL IgG2： 208～754 mg/dL IgG3： 6.6～88.3 mg/dL IgG4： 4.8～105 mg/dL
所要日数	2～5日
検査実施料	未収載

参考文献

史宇輝, 他: 医学と薬学 48: 115-120, 2002.